

1 倉庫業の現況

(1) 事業者数及び所管面（容）積

(ア) 事業者数

平成26年度末における管内営業倉庫事業者は393社（前年度末比0.6%減）であり、種類別では普通倉庫（一～三類倉庫、野積倉庫、貯蔵槽倉庫、危険品倉庫）349社、冷蔵倉庫74社となっている（第1表）。

第1表 倉庫事業者数一覧表（平成26年度末）

普通倉庫

区分	主たる営業所		計
	管内	他局管内	
発券	28	33	61
非発券	203	85	288
計	231	118	349

冷蔵倉庫

区分	主たる営業所		計
	管内	他局管内	
発券	11	12	23
非発券	38	13	51
計	49	25	74

※1 普通倉庫（主たる営業所が管内）の発券事業者28社のうち2社及び非発券事業者203社のうち3社は、管内に倉庫を有しない事業者である。

※2 普通倉庫と冷蔵倉庫の兼業は30社である。

(イ) 所管面（容）積

これらの倉庫事業者が管内に保有する営業倉庫の所管面（容）積は第2表のとおりである。管内における倉庫は神戸市及びその周辺都市に集中しており、中でも神戸市内については、普通倉庫では一～三類倉庫の55.3%、危険品倉庫（タンク）の100%、野積倉庫の79.7%、貯蔵槽倉庫の92.4%が、冷蔵倉庫では68.1%が立地している状況である。

平成26年度末における管内の倉庫種類別所管面（容）積を前年度末と比較してみると、一～三類倉庫は5.1%、危険品倉庫（その他）は0.5%、貯蔵槽倉庫は2.8%、冷蔵倉庫は7.0%それぞれ増加しており、野積倉庫は0.1%減少した。

また、一類倉庫のうちトランクルームとして認定を受けている庫腹量は82千㎡であり一類倉庫全体に占める割合は2.8%となっている。

第2表 営業倉庫所管面（容）積の推移

(各年度末現在)

区分	年度		22	23	24	25	26	対前年度比 (%)	
	種類別								
管内	普通倉庫	一類倉庫 (㎡)	2,502,244	2,535,931	2,650,571	2,745,353	2,876,579	104.8	
		うちトランクルーム (㎡)	81,138	81,138	81,138	82,343	82,343	100.0	
		二類倉庫 (㎡)	3,166	3,166	3,166	3,166	3,166	100.0	
		三類倉庫 (㎡)	57,964	52,436	52,436	53,914	66,059	122.5	
		小計 (㎡)	2,563,374	2,591,533	2,706,173	2,802,433	2,945,804	105.1	
		危険品倉庫	タンク (m³)	147,589	147,589	147,589	147,589	147,636	100.0
		倉庫	その他 (㎡)	50,573	52,562	53,604	55,096	55,353	100.5
		野積倉庫 (㎡)	421,966	419,938	426,575	426,316	426,088	99.9	
		貯蔵槽倉庫 (m³)	882,719	882,719	912,401	910,496	935,954	102.8	
		水面倉庫 (㎡)	0	0	0	0	0	—	
冷蔵倉庫 (m³)	2,128,843	2,120,324	2,217,612	2,230,260	2,389,396	107.1			
神戸市内	普通倉庫	一類倉庫 (㎡)	1,346,644	1,377,258	1,487,446	1,561,340	1,629,701	104.4	
		うちトランクルーム (㎡)	64,725	64,725	64,725	66,152	66,152	100.0	
		二類倉庫 (㎡)	0	0	0	0	0	—	
		三類倉庫 (㎡)	0	0	0	0	0	—	
		小計 (㎡)	1,346,644	1,377,258	1,487,446	1,561,340	1,629,701	104.4	
		危険品倉庫	タンク (m³)	147,589	147,589	147,589	147,589	147,636	100.0
		倉庫	その他 (㎡)	14,161	16,150	17,186	16,785	16,892	100.6
		野積倉庫 (㎡)	331,434	333,003	339,685	339,685	339,727	100.0	
		貯蔵槽倉庫 (m³)	812,168	812,168	845,850	839,945	865,403	103.0	
		水面倉庫 (㎡)	0	0	0	0	0	—	
冷蔵倉庫 (m³)	1,387,138	1,387,259	1,475,877	1,481,640	1,629,244	110.0			

(2) 倉庫需要

平成26年度における管内普通倉庫及び冷蔵倉庫の受寄物入庫量、平均月末在庫量は第3表及び第4表のとおりである。

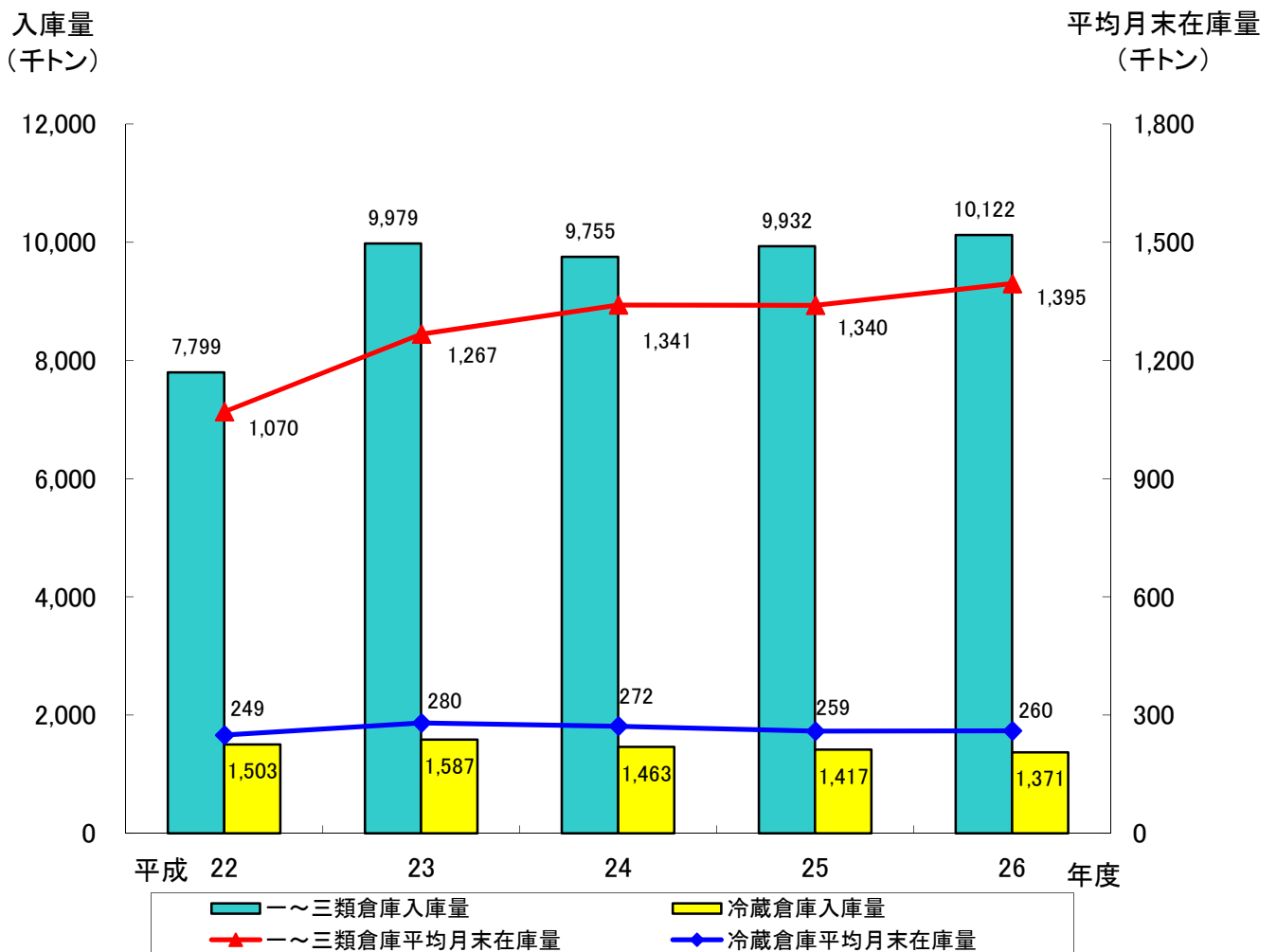
第3表 管内普通倉庫の受寄物入庫量、平均月末在庫量 (平成26年度)

品目	種類別	一～三類倉庫		危険品倉庫		野積倉庫		貯蔵槽倉庫		普通倉庫計	
		入庫量 (千トン)	平均月末在庫量 (千トン)	入庫量 (千トン)	平均月末在庫量 (千トン)	入庫量 (千トン)	平均月末在庫量 (千トン)	入庫量 (千トン)	平均月末在庫量 (千トン)	入庫量 (千トン)	平均月末在庫量 (千トン)
農水産品		724	250	0	0	0	0	2,377	319	3,101	569
金属		784	97	0	0	1,254	78	0	0	2,038	175
金属製品・機械		1,377	106	16	1	551	12	0	0	1,944	120
窯業品		62	9	0	0	0	0	0	0	62	9
化学工業品		1,568	206	580	72	4	1	7	1	2,159	280
紙・パルプ		671	75	0	0	0	0	0	0	671	75
繊維工業品		156	28	0	0	0	0	0	0	156	28
食料工業品		3,102	353	0	0	0	0	0	0	3,102	353
雑工業品		748	149	0	0	23	0	0	0	771	150
雑品		930	122	1	0	0	0	16	4	947	126
平成26年度計		10,122	1,395	597	74	1,832	91	2,400	323	14,951	1,883
対前年度比 (%)		101.9	104.1	96.1	102.8	109.6	108.6	115.7	109.2	104.6	105.1
平成25年度計		9,932	1,340	621	72	1,671	84	2,075	296	14,299	1,792

第4表 管内冷蔵倉庫の受寄物入庫量、平均月末在庫量（平成26年度）

品目	項目	入庫量 (千トン)	平均月末在庫量 (千トン)
生鮮水産物		1	0
冷凍水産物		139	29
塩干水産物		41	11
水産加工品		34	7
畜産物		154	27
畜産加工品		157	25
農産物		172	47
農産加工品		69	14
冷凍食品		466	87
その他		138	13
平成26年度計		1,371	260
対前年度比 (%)		96.8	100.4
平成25年度計		1,417	259

第1図 管内一～三類倉庫及び冷蔵倉庫の入庫量、平均月末在庫量の推移



(3) 倉庫管理主任者スキルアップセミナー

倉庫管理主任者制度の一層の充実と倉庫管理主任者の更なる資質の向上を図ることを目的として、平成27年3月6日に、倉庫管理主任者を対象とした「倉庫管理主任者スキルアップセミナー」を開催し、75名の参加を得た。セミナーでは、森本倉庫(株)から「倉庫管理業務の実務」、神戸市消防局から「倉庫火災の防止」、神戸税関から「保税制度」をテーマとした講演を行っていただき、適正な倉庫の運営管理の確保について理解を深めた。

(4) 総合効率化計画認定状況

「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」に基づき、物流を総合的かつ効率的に実施することにより、物流コストの削減や環境負荷の低減等を図る事業について、その計画を認定し、認定を受けた計画に記載された事業に対する支援を行っている。平成26年度は神戸運輸監理部において新たに2件の認定を行い、認定件数は合計17件となった。

第5表 総合効率化計画認定実績について

申請日 認定日	事業者名 (役割分担)	資本金 (万円)	従業員数 (人)	特定流通業務施設		流通業務総合効率化事業の概要	CO2削減率 (%)	社会資本 からの距離
				総床面積: m ²	所在地		CO2削減量 (t)	
H27.1.9	(株)キューソー流通システム (保管・荷捌き・流通加工)	400,000	619	21,230	兵庫県神戸市東灘区 深江浜町27-1	枚方営業所、枚方第二営業所、伊丹第二営業所、神戸営業所に荷主が分散、混在しているため、保管している食品等を神戸営業所に集約することで、非効率となっている物流の効率化を図る。	11%	ICから0.6km
H27.1.27	堀部運送(株) (輸送)	1,080	110				280	
H27.3.4	山九(株) (保管・荷捌き・流通加工・輸送)	2,861,900	10,785	28,613	兵庫県神戸市西区 美津が丘3丁目16-1	神戸支店が、古野電気(株)の製品・部品の保管・管理・検品・梱包・出荷を行っているが、これまで拠点が分散していたことで横持ち輸送が多く非効率であった。今後は西神戸物流センターに一括集約することにより、作業の効率化及び「ワンストップ物流」の実現を図ることで効率化する。	41%	ICから1.1km
H27.3.12							2,271	